

学生と楽しむ授業へ：コンサルティング・ワークショップ

企画者： 清水 亮（同志社大学学習支援・教育開発センター）

橋本 勝（富山大学大学教育支援センター）

教育コンサルタント：

上野寛子（明治学院大学教養教育センター）

川上忠重（法政大学理工学部）

たなかよしこ（日本工業大学工学部）

橋本 勝（富山大学大学教育支援センター）

清水 亮（同志社大学学習支援・教育開発センター）

学生コンサルタント：

中里祐紀（岡山大学大学院文学研究科）

曾根健吾（東洋大学大学院文学研究科）

萩原広道（京都大学医学部）

高橋雄大（岡山大学工学部）

東海麻由（富山大学人間発達学部）

企画趣旨

全国で学生と楽しむ授業を实践されている先生方、学生参画型 FD を推進し授業改善のアドバイスができる大学院生・大学生をコンサルタントに、『質的転換答申』の内容を、どうすれば、授業の实践の中で实现できるのか悩まれながら、全国津々浦々で授業改善に取り組んでいらっしゃる、取り組もうとしていらっしゃる大学コミュニティの構成員（教員・職員・学生）の皆さんの背中を押す授業改善のコンサルティング・ワークショップを展開し、授業改善デザイン・手法の改善の实践的なアイデアを提供することを目指したい。

名古屋大学の『ティップス先生』や山形大学の『あっと驚く大学授業 NG 集』は、自らの授業を振り返る際、マクロの FD の観点のヒントを与えてくれる。しかし、学生の態度・レベルに合った授業デザインや授業手法の考察など授業の根幹に関わることとなると、なかなか一人では、妙案が浮かばないものである。さらに、新しい授業デザインや授業手法の導入には、教える側が、十分案を練った上で、学生の反応に注意しながら、さまざまな変更を加えていくことが不可欠である。学内で、積極的に公開授業などを行い、教員間で意見交換し、自らの授業を振り返りながら、授業改善に取り組んでいる大学は、非常に限られているのが現状ではないだろうか。

私立大学の 4 割が定員割れを起こす中、大学教育のパラダイムシフトに対応する、授業改善は待ったなしである。そんな中、全国の大学で、孤軍奮闘しながら、学生の主体的な学びの推進のための努力が続けられている先生方も数多くいらっしゃるはずである。このワークショップでは、全国で学生と楽しむ授業を实践されている先生方、学生参画型 FD を推進し授業改善のアドバイスができる大学院生・大学生をコンサルタントにお招きし、コンサルティング・ワークショップ形式で、学生と楽しむ授業デザイン、授業手法を体験していただき、来年度の実践に活かしていただくことを目標したい。このワークショップを通じて、「学生と楽しむ授業へ」一歩踏み出していただければ、うれしい限りである。

ワークショップの流れ

- 13:30-13:35 趣旨説明
 13:35-13:50 ファシリテーターの紹介・争奪合戦
 13:50-15:00 グループワーク
 15:00-15:45 参加者のプレゼンテーション
 15:45-16:00 オープン・フロアー・ディスカッション（全体のふりかえり）

教育コンサルタントからのメッセージ

上野寛子（明治学院大学）：気持ち良く授業ができず、毎週ストレスを抱えておられる先生はいらっしゃいませんか。困った状況をおうかがいし、問題点を整理していきます。「学生と楽しむ授業」にしていくための具体策を提案してまいります。

川上忠重（法政大学）：学生が楽しめる授業方法やデザインが数多く事例として紹介されているが、現場での授業形態や対象学生は様々である。授業手法の画一化から脱却し、「自分流」を目指して、楽しく参加者と一緒に授業について考えたい。

たなかよしこ（日本工業大学）：学生と楽しむために、教えたコトから解放される。そのために、ちょっと視点を変えてみる。学生が「考えること」を楽しめるように、考えて「手かかり」をひそやかに残す。そんな視点を一緒に探しませんか。

橋本 勝（富山大学）：7月から「楽ティブラーニング」という造語を使い始めました。巷で推奨されるアクティブラーニングは教員にとっても学生にとってもやや負担感があり、もともと気楽に取り組める主体的学びを目指す言葉です。「学びの主権者」「相互集団教育力」「UD」など次々新語を世に送り出してきた橋本の真髄はここに極まれり、という感じです。

清水 亮（同志社大学）：前任校での経験を基に、学習意欲のあまりない学生にも、「わかる、できる、楽しい」を実感してもらう授業デザイン・手法のブレインストーミングをしながら、Fun to Teach, Fun to Learn, Again!の授業を、一緒にクリエートしてみませんか。

学生コンサルタントからのメッセージ

中里祐紀（岡山大学大学院）：岡山大学教育開発センターの学生・教職員教育改善専門委員会の委員長や、i*Seeの実行委員長を務めるなど、学生参画型FDに携わってきました。当日は「学生コンサルタント」という役割を与えられてはいますが、私も参加者の皆さまとの議論を通して「学生と楽しむ授業」について勉強させていただきたいと思います。

曾根健吾（東洋大学大学院）：学生参画型FD活動に携わって4年目になります。学生の主体的な学びの確立が求められる今、自分のこれまでの経験と学生の視点を最大限に活かし、「学生と楽しみ、学生を成長する授業」のデザインにお役に立てるよう頑張りたいと思います。

萩原広道（京都大学）：学生コンサルタントという大役を仰せつかり、正直とても緊張しています。当日は、『ゆとり京大生の大学論』編集など自身の経験を土台に、教員・学生双方に実りのある授業デザインを参加者の皆さんと一緒に模索したいと思います。

高橋雄大（岡山大学）：講義は、学生と教員の出逢いの場。魅力的な教員は、なかなか忘れることができない。大学時代の片隅に残る…そんな教員がどんどん増えて欲しい。

東海麻由（富山大学）：ファシリテーターをさせていただくことになり、嬉しく思っています。皆さんと意見などをたくさん共有していけるように、話し合いの場を盛り上げていきたいと思っています。楽しみにしています。よろしくお願ひします。